

発災から10年目を迎える東日本大震災。全国曹洞宗青年会として10年目に向けての取り組みの一つとして、研修会を開催します。現在のコロナ禍で対応を迫られ変容を見せる支援活動。講師先生のご専門である災害時における寺院の役割、「ソーシャル・キャピタル」の視点などからご助言をいただき、いま寺院・僧侶に求められる支援活動について、災害時のみならず平時からどのように連携していくかを考え、今後の青年会のより良い災害復興支援活動の一助としたいと存じます。今回はオンラインにての開催となります。ぜひ多くの皆様にご参加いただけますよう、広くご案内申し上げます。

 全国曹洞宗青年会

災害復興支援部

演題

地域に生きる寺院の災害時連携

講師 大阪大学 人間科学研究科 教授

稲場 圭信 先生



稲場圭信（いなば けいしん）：1969年、東京生まれ。大阪大学大学院教授（人間科学研究科・共生学）、防災見守り共同研究代表、大阪大学社会ソリューションイニシアティブ（SSI）基幹プロジェクト「地域資源とITによる減災・見守りシステムの構築」代表。

東京大学文学部卒、ロンドン大学キングスカレッジ大学院博士課程修了。宗教学博士。現在は、大阪大学大学院教授（人間科学研究科・共生社会論）。2000年、博士号取得後、ロンドン大学、フランス社会科学高等研究院（EHESS）日本研究所、國學院大学日本文化研究所を経て、2003年4月に、神戸大学助教授（発達科学部人間科学研究センター）。2010年4月に、大阪大学准教授。2016年4月より現職。

2007年、オックスフォード大学およびロンドン大学IOE（教育学院）客員研究員（文部科学省・研究拠点形成費等補助金・海外先進研究実践支援）。

東日本大震災から10年 オンライン研修会

災害に対してのこれからを考える

令和3年1月15日（金）14時～15時45分



参加無料
申込詳細

オンライン（zoom使用）
全曹青公式HP『般若』 <http://sousei.gr.jp/>
または左記QRコードよりご覧ください。